

環境中長期目標と実績

目標項目	2025年 目標	2030年 目標	実績と評価					
			2021年 達成度	2022年 達成度	2023年 達成度	2024年 達成度	2024年 全体評価	2024年概況と今後の対策
容器・包装素材のプラスチック： 植物由来／リサイクルプラスチック使用比率向上*1*2	25%	50%	5%	6%	14%	27%	◎	ハブラシ、歯間ブラシのパッケージに用いる包装材への再生プラスチック採用に加え、2023年からは、サンスター容器・包装材で最もプラスチック使用量の多い洗口液のボトルへの植物由来プラスチック採用を開始、採用品種の拡大を進めています。
使い終わった容器・包装材： リサイクル／リユース可能な材料*3比率向上*1*2	55%	100%	73%	68%	75%	74%	◎	接着剤・シーリング材の金属缶が高実績に反映されています。一方、ハミガキ、ハブラシなどでは品質・安全性確保や、使い勝手向上のため異素材が複合化された容器が多く、今後は品質を確保しながら廃棄時に素材を分別しやすい容器の開発を進めます。
容器・包装材に使う紙： FSC®*5等の森林認証紙比率向上*1*4	100%	100%	53%	70%	71%	81%	○	製品の個装箱、ハブラシ、歯間ブラシのパッケージ台紙に使う紙を森林認証紙に順次切り替えています。日本での切り替えがほぼ完了したほか、生産財事業での採用が拡大しました。欧州では規制事情から再生紙の採用が優先的に進められており、目標設定の見直しを検討中です。
製品につかうパーム油： RSPO*6等の持続可能認証比率向上*7	50%	100%	9%	14%	25%	40%	○	2021年にRSPOに加盟、洗口液の原料であるグリセリンに用いるパーム油向けにRSPO認証パーム油の購入を開始し、計画的に採用率向上を進めています。
自社工場・事業所で使う電力： 再生可能電力（CO2フリー電力）比率向上*8	65%	100%	26%	27%	24%	24%	×	欧州ではほぼ100%、日本では50%強が再生可能電力を採用。太陽光発電パネルは、ドイツのハブラシ・歯間ブラシ工場と接着剤工場、山梨の洗口液工場、シンガポールの接着剤・金属部品工場で稼働中。2024年から2025年にかけて日本と米州などで再生可能電力調達が進みつつあり、2025年目標の達成を目指します。
自社工場で使う水： 生産量当たりの水使用量削減(kgあたり)*9*10	-10%	-20%	1%	9%	-23%	-12%	◎	生産工程見直しによる水使用量削減の成果も出ている一方、温暖化に起因する水使用の増加も見られます。水使用実態の更なる分析を進め、削減対策を進めます。
自社工場で排出するCO2： 総排出量削減(Scope1+2)*8*9	-50%	-85%	-22%	-21%	-13%	-17%	△	サンスターグループでは事業所で使うエネルギーの80%以上が電力使用によるもので、2024年度から2025年度にかけての再生可能電力比率向上、省エネ設備導入、工場設備の効率的な運用などを進めることで、2025年のCO2排出削減目標達成を目指します。

*集計範囲：グループグローバル自社工場のデータを統合。消費財米国工場は電力、水、CO2のみ、ツバメックス社は電力、CO2のみを集計
消費財事業＝オーラルケア製品、化粧品、健康食品など生活者向け製品関連事業
生産財事業＝自動車・建築・電子機器用接着剤・シーリング材、バイク・自動車用金属部品など産業用製品関連事業、トーヨーポリマー社除く
*全体評価の判定基準：◎計画以上、○ほぼ計画通り進捗、△計画未達だが進展あり、×現状より悪化
*1消費財事業の欧州調達分を含む、*2製品容器・個装包装材分（日本消費財及び生産財は外注先調達材料を除く）
*3リサイクル／リユース可能な材料＝製品使用後に容易に素材別に分離可能としたもの、*4個装包装材分（日本消費財、生産財は外注先調達材料除く）
*5FSC®（Forest Stewardship Council®、森林管理協議会）＝責任ある森林管理を世界に普及させるための独立した非営利団体で、森を守る国際的な森林認証制度を運営。
*6RSPO（Roundtable on Sustainable Palm Oil）＝持続可能なパーム油のための円卓会議。当社 RSPO 加盟進捗状況 <https://rspo.org/members/12085>
*7自社調達分、2021年度はマスバランス品、*8消費財の米国生産拠点、日本・米州・欧州自社オフィス含む
*9基準年：消費財事業 2020 年、生産財事業 2019 年（2020 年顧客企業群が大幅減産年となったため）、*10生産財事業・山梨工場の地下水含まず